

年 頭 所 感

理事長
高木 建

『経済再生に新たな展望をつなごう！』

皆さん、あけましておめでとうございます。

四年前のリーマンショック、一昨年の中東大震災の試練を経て、昨年は経済がゆるやかな回復軌道を辿ると思われましたが“失われた二十年”のツケである六重苦の壁は厚く、我々シャー業は相変わらず先行きの見えない中で厳しい企業経営を余儀なくされました。

では今年の景況はどうか？ 私は、漸く景気も底を打ち年後半には回復の足取りが見えてくるのではないかと思います。まだ余談は許さないものの政治が動き始め、先行きへの期待感から円高修正や株価回復の兆しが見え始めています。

これまでの政治・経済の混迷の代償として、為政者の不作為や国難の実態など経済・社会の課題について国民レベルで多くの「気付き」が出来ました。そして、これまで蔓延していた閉塞感、不安感を打破し、我々の手で経済の元気を取り戻そうという「気」が生まれてきたことは大変に心強く思います。勿論、経済をとりまく六重苦の多くは、一朝一夕に片づくものではありません。しかも経済は生きもの、環境変化のスピードと激しさから次々と新たな困難が降りかかるだろうことも想像に難くありません。

こうした中で、我々が今為すべきことは、目の前にある課題を一つひとつ着実に解決するとともに、常に将来を見据え事業の方向を見極める眼を養うことではないでしょうか。

漸く出直しの「気」が生まれてきた今年こそ着実な一歩を進めていきたいものです。

我が業界においても、今年前半は「我慢」と「守り」、後半は将来を見据えた「種まき」という攻守を使い分ける難しい事業運営を迫られる年となりそうです。

具体的には、建材分野を中心に再生産に必要な適性マージンの確保に注力する、また建産機分野を中心に在庫調整を促進することが急務かと思えます。更には構造的な需給ギャップ解消に向けた企業間連携や再編統合を模索し、実行することが主要課題になろうかと思えます。

本部としても個社での対応が困難な共通課題、たとえば建材分野における不合理な商慣習を改め、適正な加工マージン確保に資する「鋼材品質証明ガイドライン」の普及、あるいは将来を担う青年会活動への支援等について引き続き注力していく所存であります。

以上、本年を経済再生元年と念じつつ、会員の交流をさらに深め、我々自らの手で業界の展望を拓いていきたいと思います。ご支援よろしくお願い申し上げます。

(株) 富士鉄鋼センター 社長

年 頭 ご 挨拶

鉄鋼産業懇談会

厚板部会長 久保 亮二

皆様、新年明けましておめでとうございます。
平成25年の新春にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、世界経済は欧州の債務危機が一進一退を繰り返す中、中国をはじめとした新興国は減速をし始め、アメリカ経済も低迷しており、厳しい一年でした。

また昨年は、アメリカ大統領の再選、ロシア大統領・中国指導部・韓国大統領の交代等、政治的に緊張感がありましたが、今年は、各国政府は経済対策を本格化させるとの見方も出てきております。

一方、日本経済ですが、円高による生産の海外シフト、復興需要の遅れ、海外需要低迷の影響など、経済成長率は鈍化したままです。

年末に3年半ぶりに自民党安倍政権が誕生し、経済重視の姿勢を評価され円安株高に向かいました。

今年は、輸出が緩やかに持ち直し、景気は底入れし、年後半には消費税の駆け込み需要も期待しています。また、経済対策が本格化し、民間の投資活動、消費活動にも波及を期待したいところです。

国内の鉄鋼ですが、今年度の粗鋼は、上期の回復傾向にありましたが、下期に入ってから減速が鮮明で、前年度並みの、1億600～700万tとの見通しです。

2013年度については、建設分野は増加するものの、造船向けの減少が見込まれ、自動車・機械分野等も、伸び悩むと見込まれ、粗鋼は、前年度比で微減と予想しております。

厚板を取り巻く環境は、主要需要分野の造船の低迷、建設機械の減速で、厳しいと予想されます。また、至近では、海外からの攻勢も強く、円安傾向とは言え、予断を許しません。

こうした中、全国厚板シェアリング工業組合の皆様をはじめとした、流通のお客様と、我々メーカーが、行っていかなければならないことは、”需給にあった受注販売活動”に尽きると思います。

皆様の生産される、”切板”は、高品質・短納期で、日本経済にはなくてはならない商品です。この商品を、再生産できる価値で、安定的に供給し続けることが大切です。

我々メーカーも、デリバリー・品質など、今以上に向上させ、皆様と一緒に、魅力ある厚板マーケットを構築して参りたいと考えております。

今年は巳年です。蛇は脱皮することから、”復活・再生”を連想させます。まさに、今年は、日本経済の復活再生元年とすべく、取り組んでまいりましょう。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご繁栄を心より祈念致しまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

(JFEスチール(株) 常務執行役員)